

研究室 からの メッセージ

97

Data(2012年12月現在)

所在地：〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3
スタッフ：福井小紀子(教授)、澤井美奈子(講師)、藤田淳子(講師)、乙黒千鶴(助教)、加藤めぐみ(助手)、藤川あや(博士2年)、川野英子(博士1年)、石川孝子(修士2年)、岩原由香(修士1年)
URL <http://www.redcross.ac.jp/index.html>

後列左から藤川、川野、岩原
中列左から加藤、乙黒、石川
前列左から澤井、福井、藤田



日本赤十字看護大学 看護学部地域看護学領域

History and Now

どのような機関なのでしょう？

日本赤十字看護大学は、1890年に開始された日本赤十字社病院における看護婦養成を前身とし、日本赤十字女子短期大学を経て、1986年に4年制大学となりました。1993年に大学院看護学研究科が認可され、日本赤十字学園初の修士課程、1995年には博士課程を設置しました。

保健師教育の始まりとして、1928年に日本赤十字社東京中央病院に社会看護婦養成所を開設し、わが国最初の公衆衛生看護教育を実施しました。現在、国内外での災害復興支援や保健医療強化支援などの活動を展開する人材の育成をしています。

Education

どのような教育をしていますか？

学部では、公衆衛生看護学と在宅看護学の両方を教育しています。地域で暮らす個人・集団を対象に、生活に目を向けた質の高い保健・看護活動を展開するという視点を重視しています。これらは、保健師に限らず、いかなる現場においても看護職として働くうえで必要不可欠な視点であることを伝えています。

公衆衛生看護学では、相談場面をリアルに再現して演習を行い、生活のなかでの支援活動を学んでいます。住民を対象に健康教育を行い、保健師に必要な健康支援の視点を養っています。在宅看護学では、疾患を抱えながら地域で暮らす療養者やその家族への支援について学び、訪問看護師の関わりや多

職種との連携を目で見て感じ、その人らしさを活かす関わりについて学びを深めています。

大学院では、公衆衛生看護や在宅看護などの諸現象について学問的に探求しています。研究テーマや手法はさまざまであり、研究目的に応じて質的・量的研究のどちらも学び、実践力に加え、研究する楽しさを学んでもらえるよう関わっています。

Research

どのような研究活動を行っていますか？

各教員のもつバックグラウンドの強みを活かし、地域に密着した研究から政策につながる研究や諸外国の現状など、幅広い研究を行っています。東日本大震災においては、厚生労働科学研究の分担研究として、福島県双葉8町村の住民の健康調査を行い、課題を整理し、今後に向けての提言を行いました。この成果は、現在、大学・日本赤十字社が共同で行う支援活動につながっています。

Collaboration

保健活動の現場とのつながりは？

大学所在地の渋谷区とは、現状や課題を踏まえた保健師による講義、保健活動をリアルに学べる実習とおして連携をとっており、看護学生にとって貴重な経験の場を提供していただいています。さまざまな事業・イベントにボランティアとして学生や教員が参加し、相互の交流を深め、よい刺激を受けています。今後も現場との繋がりを大事にし、教育との融合を図っていきたいと考えております。

ひとこと

地域看護学領域では、地域で働く看護職員の連携強化を重視した実践密着型の教育研究を展開しています。さらに、病院の退院調整看護師や外来看護師と地域で働く看護職との看看連携、また地域や病院との多職種連携を重視した地域看護学・在宅看護学に関連する教育研究活動に、教員スタッフや大学院生全員で総力を挙げて取り組んでいます。私たちの仲間に加わっていただける方、大歓迎いたします！ ……福井

あなたの研究室を紹介してください！ 保健師ジャーナルでは、このページに登場してくださる研究室(保健師教育に関わる講座・分野・領域)を募集中です。研究室での保健師教育の特色や、研究活動、現場とのつながりを紹介してください。
応募について ●まず電話、FAX、E-mailにて編集室までご連絡ください。掲載分には医学書院特製図書カードを進呈いたします。
連絡先 ●医学書院『保健師ジャーナル』編集室 ☎ 03-3817-5774 FAX 03-5804-0485 ✉ hokenshi@igaku-shoin.co.jp